



10月園だより

2020年10月
尚徳福祉会
沼袋西保育園
園長

9月の運動会開催に当たっては、急なお知らせにも関わらず、ご理解と沢山の励ましのお言葉をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

運動会当日、ゆり組さんは緊張している様子が見られました。そんな中でも幼児さんは皆、目一杯、競技を楽しんだり、真剣に取り組んだり、お友だちを応援したり助け合ったりと普通の保育では見られないような場面、表情が見られ、先に掲げた「みんなが楽しい運動会」になったことを職員全員で喜びかみしめております。ご理解、ご協力ありがとうございました。

これから過ごしやすい季節となります。園庭では春にゆり組さんが植えてくれた苗がグングン成長し、稲穂を实らせてきました。「おにぎりつくろうよ！」と今からはりきっています。

これから運動会の余韻を楽しみつつ、スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋、芸術の秋、、様々な活動を通して充実した園生活を送っていきます。

☆10月の予定☆

- 1日(木) 避難訓練
- 2日(金) 3歳遠足
- 6日(火) 幼児身体計測
- 7日(水) 乳児身体計測
- 8日(木) 秋の健康診断(幼児クラス)
- 9日(金) 4・5歳遠足
- 22日(木) 秋の健康診断(乳児クラス)

※5日・12日・19日の各月曜日、英語であそぼう

☆11月の主な予定☆

- 5日(木) 避難訓練
- 6日(金) 歯科健診 9:30~
- 10日(火) 幼児身体計測
- 11日(水) 乳児身体計測

※9日・16日・30日の各月曜日、英語であそぼう

が9月
いっぱい退園いたしました。皆と仲良しになっ
たのに残念です。元気でね。。

☆お知らせ・お願い☆

○日頃から感染予防にご協力いただき、誠にありがとうございます。引き続き、マスクの着用、手指消毒、検温、体調管理、園内滞在時間の短縮等、ご協力をお願いいたします。

○区で策定されました「区保育の質ガイドライン」を活用し子どもを中心とした保育、保育環境の整備等を行っております。1階本棚の上に置いてございますので、一度お手にとってご覧ください。

○きょうだい児の登園、降園の際のお願いです。感染症対策として保育室内の消毒等に力を入れております。ただ抵抗力がまだ弱い乳児さんには更に慎重に対応していく必要があります。つきまして、登園は大きいクラスのお子さんから、お迎えは小さいクラスのお子さんからお願いいいたします。ご協力よろしくお願いいいたします。

○延長保育・利用料・写真代等お支払い方法の変更をご希望の方は月末までに事務所までお知らせ下さい。又、PayPay/AirPayでのお支払い対応は事務員、園長、主任のみの対応となります。請求書をお持ちの上、朝8時15分~夕方6時15分までにお願いいいたします。

○4月より中止しておりました保育参観を10月より再開いたします。1日各クラス1家庭とします。園での様子をぜひ見に来ていただけたらと思います。ご希望の方は、各担任までお知らせください。

いたずらと好奇心



0~3歳 能力を育てる 好奇心を引き出す
主婦の友社 汐見 稔幸 氏

いたずらは探求心のかたまり

赤ちゃんにとって、いたずらと好奇心は表裏一体のもので、1歳を過ぎて、自由に移動できるようになった赤ちゃんには、さわもの、見るものすべてが新鮮で、大人が考えるよりはるかに、ハラハラ、ドキドキしていることでしょう。「何だろう、これ」と思ったら、とりあえずなめてみたり、つかんでみたり、投げてみたり、五感のすべてを使って活動しています。子どもにはどれが大事なものか、高価なものかなどは全くわかりませんから、大人にはいたずらにしか見えなくても、子どもにはすべて探求心のあらわれなのです。

子どもの探求心を満足させるために、いたずらはできるだけおおらかに保証してあげてください。もちろん無制限にさせる必要はありません。あるところまではさせてやり、これ以上はダメという境界を決めておくとういでしょう。

興味のあるものベスト3は水・穴・棒

かつて、幼い子どもはどんなものに興味を持つのかを議論したことがあるのですが、その結果、興味のあるものベスト3は、1、水 2、穴、3、棒切れ という結果でした。

水遊びの代表が水道の蛇口のいたずら。ちょっとひねるだけで水量は自在に変えられるし、さまざまに変化する水の動きのおもしろさ。道に水たまりがあればわざわざ入り、ピシャピシャとはね回っている子どもの生き生きした表情。幸福感でいっぱいといった感じです。

また、穴があればのぞいたり、指を突っ込むし、穴がなければ掘る。棒のようなものにも興味津々。ほんものの棒切れはまだ危ないので、新聞紙を丸めて刀を作ってあげると子どもは喜びます。



いたずら規制でやる気のない子に

子どもの知的探求心を満足させるためには、家の中が多少きたなくなるのはしかたがないでしょう。ずっと続くわけではありませんから、少しの間のしんぼうとと思ってください。

子どもは親にきらわれたくないという気持ちが強いので、それをさか手にとって、親好みの子に育てることは可能です。しかし、この時期の探求心をあまり親好みに規制するのは、長い目で見てマイナスだと思えます。

子どもの中には親の気持ちを敏感に感じとって、親の期待に過剰に適應する子もいます。そういう子は親から見るとよい子ですが、やがて目に輝きがなくなって、心の中にも躍動感がなくなってしまいます。そして、大きくなって自立しなくてはならないときに、自分の本当の興味関心からこんなこともやってみたい、あんなこともやってみたいという心のベースが育っていないということになりがちです。いわゆる“やる気のない子”になってしまうのですね。

なぜ私がこんなことを言うのかというと、年をとっても輝いている人は好奇心を失わない人だと思うからです。人間を死ぬまで活性化させてくれるのは好奇心だと思うし、私自身はそれを失わないようにしたいと思っています。

いたずらしない子はどうしたらいい?

子どもの個性はいろいろですから、なかにはいたずらなんかほとんどしないという子がいても、それはそれでかまわないと思います。性差も大きく、男の子は動くものが好きで、投げたりこわしたりということに強い関心がありますが、女の子は想像することに関心が強く、ごっこ遊びなどに熱中する傾向が強いようです。

好奇心の見えにくい子、いたずらしない子の場合は、特に親が先回りしてあれこれ指導しないで、子どもの後ろからついていこうにしましょう。子どもが何かにこりだしたら、なるべく豊かにできるように配慮してやります。じょうずに興味の後押しをしてやるのが探求心を伸ばすコツです。